

段連続の滝。下から7m, 10mと続き, 最上段は全貌がみてとれず高さがわからない。沢はここで一気に高度を上げている。

最下段の7mは越えたが, 次の10mが越せない。高捲きをしようにも取付き部の草付の状態が悪い。結局壁に咲いたヒメサユリに見送られて撤退することになった。

(記・……………)

[タイム] 林道終点(8:05)→プール(8:30)→二俣(9:40)→遡行終了(10:10)

蒲生川支流小白沢

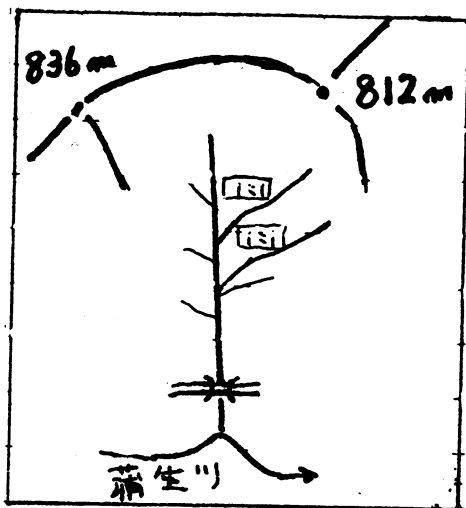
1996年7月28日

L……………

小白沢にかかる橋から入渓。すぐに堰堤。その上は広いプールになっているので, 右岸のヤブをこいで通過する。1時間ほど河原歩きをしたところで, やっと3m, 6m, 2mの滝が出てくる。以後はナメ状となり, 歩きやすい。

さらに1時間ほどの歩きで谷が開け, この山塊特有の, 雪で削られてツルツルした岩の上から水が流れ落ちているスラブの滝に出会う。ここだけは左岸を高捲く。以後滝の連続で, あきない。

最後の滝(2m×1mのナメ)を越すと, 1:1の二俣になり, 左沢にルートをとる。沢は岩盤に足の幅くらいの浅い溝を掘ってトイ状にながれ, 急激に高度を上げている。昨日の二の舞の引返しかと思ったが, 宍戸さんは事もなげに登ってゆく。最後の二俣は右にルートをとるが, 水量はトイを湿ら



せる程度となり、やがて涸れてしまう。所々にある灌木につかまりながら岩場の上を登るが、意外に足場はよく、水が涸れてから15分ほどで稜線に出る。天気が良く、見晴らしがきいて大満足である。代官袋沢が突き上げている東岐山の姿が特に印象深かった。(記・

[タイム] 橋(7:30)→清作沢出合(8:10)→最後の二俣(10:45)→稜線(10:55)

蒲生川支流無名沢 1996年7月28日

I

小白沢の遡行後稜線で十分に景色を堪能した後、バリカンで刈ったようにブッシュが一筋はぎ取られ、岩肌がむき出しになっている所を下降する。傾斜が急すぎてツルツルなので、靴のフリクションだけでは体を支えられず、脇のブッシュにつかまりながら下る。佐藤さんはワラジのフリクションがきくのか、下降がうまいのか、アツというまに下って行ってしまった。

20分くらいで170mほど下って、最初の小沢に出合う。ここからは傾斜も緩くなり、滝らしい滝も出てこないまま林道に出る。

林道を1時間ほど歩いた所で大西君の車にひろってもらい、キャンプ地に戻る。

(記・

[タイム] 稜線(11:05)→最初の沢(11:20)→林道(11:45)

蒲生川支流苧卷沢 1996年7月28日

L

昨年間違って入ることができなかった苧卷沢へ、今度は間違いなく入谷。林道より直接入ることになるが、出合はコンクリートの流路、周辺はヤブで、最初からアルバイトとなる。

ほどなく治山ダム。右岸を乗り越えて先に進むとまたしても治山ダム。今度